

失語症のリハビリテーション

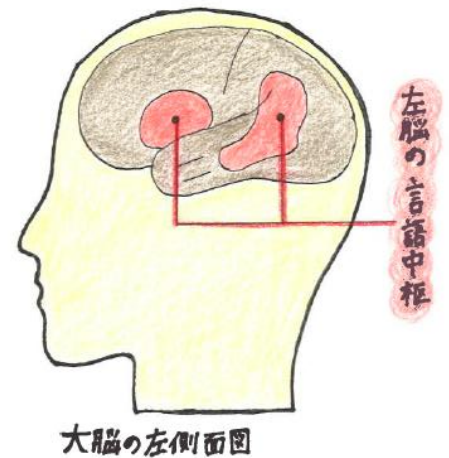


恵寿総合病院
リハビリテーション部
言語療法課

1. 失語症とは？

脳卒中や頭部外傷などにより、脳の言語中枢に損傷を受け、それまでに獲得した言語機能（聞く・話す・読む・書く）に問題が生じた状態を「失語症」と言います。

お一人ずつ、重症度や目立つ症状が異なります。



2. 失語症の主な症状

聞く

- ・話しの内容が理解しにくい



話す

- ・言いたい言葉が出てきにくい
- ・違う言葉が出る



読む

- ・字で書かれた単語や文章の意味が分かりにくい
- ・文字を読むのが難しい



書く

- ・書きたい文字が思い出しにくい
- ・違う文字を書く



3.失語症の方とのコミュニケーション

失語症の方に話しかける時

・ゆっくり短く話す

失語症になると、話すこと・聞いて理解することに時間がかかります。普段のスピードよりゆっくり話すよう心がけましょう。また、長文になると理解が困難になるため、簡潔に話すようにしましょう。

例) そろそろ 12 時なるのでお昼の用意をしようと思うのですが、少し時間がかかるので、お腹がすいているならみかんを食べてもいいですよ。⇒みかんを食べますか？

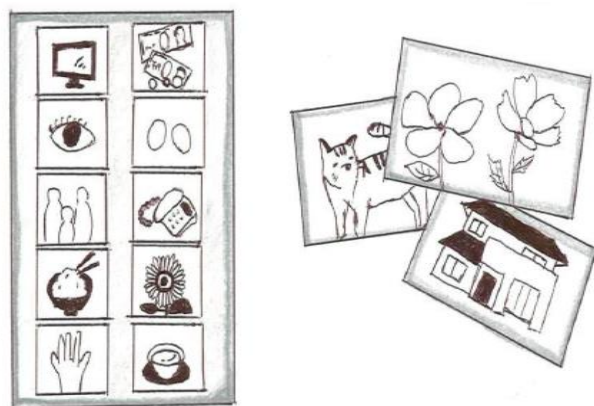
・身振り手振りを加えて話す

言葉だけでなく、身振り手振りをいれることで理解しやすくなると言われています。話すときは、大きくうなずいたり手で大きさを表したりと言葉と一緒にジェスチャーを付けるようにしましょう。



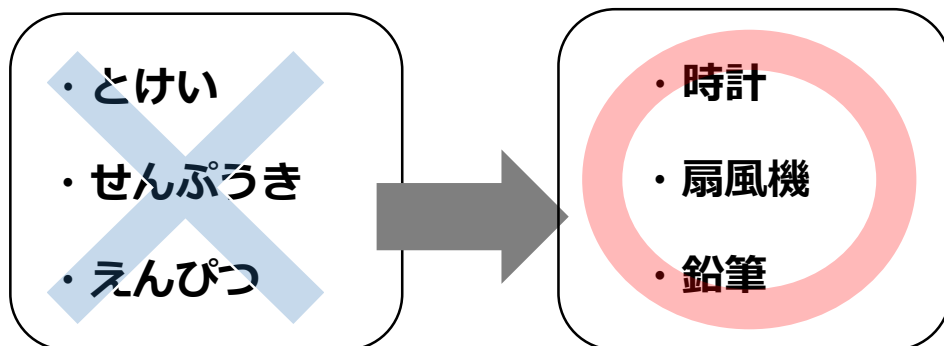
・ イラストや物を使って話す

頭の中ではイメージができていますので、イラストや物を使うと理解しやすいです。会話の補助として、イラストカードを用意しておくのも良いでしょう。



・ ひらがなより漢字を使う

ひらがなは「音」を表しているのに対し、漢字は文字の「意味」を表しています。その為、失語症の方は漢字のほうが理解しやすいという傾向があります。

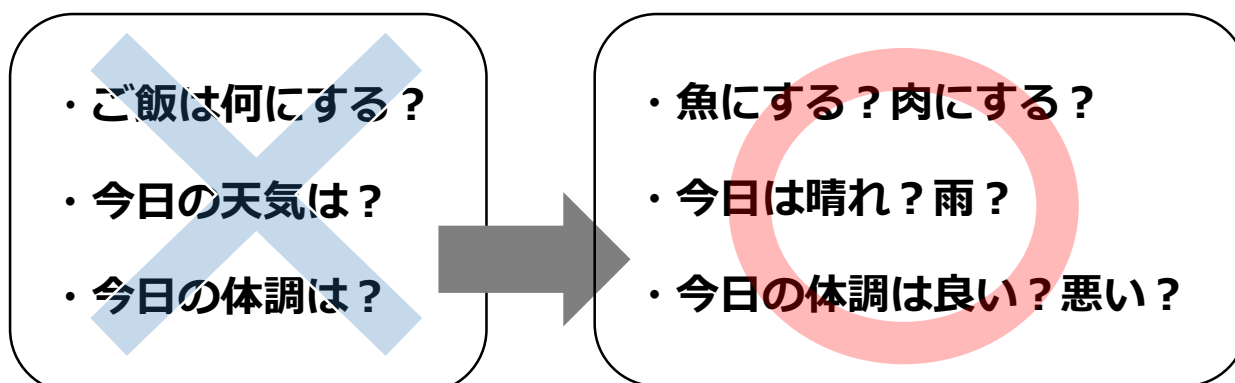


・ 話題を急に変えない

全部の言葉が理解できなくても、状況、話の流れから推測して、理解の障害を補っていることも多いので、急な話題転換は行わないように気を付けましょう。



・YES-NO 質問や選択肢から選ぶ質問にする



失語症の方の話を聞く時

・ゆっくり、せかさないようにする

話し出しが一呼吸遅れることがあります。それをせかすと言いたいことが言えなくなってしまう。表情を見ながら相手が話し出すのをゆっくり待ってみてください。ただし、待ち過ぎると、かえって患者さんのストレスになります。相手が話すのを諦めてしまいそうな時には、すかさず助け舟を出してください（「〇〇のことでしょうか？」などと選択肢を提供する）。

・コミュニケーションノート・カードを利用する

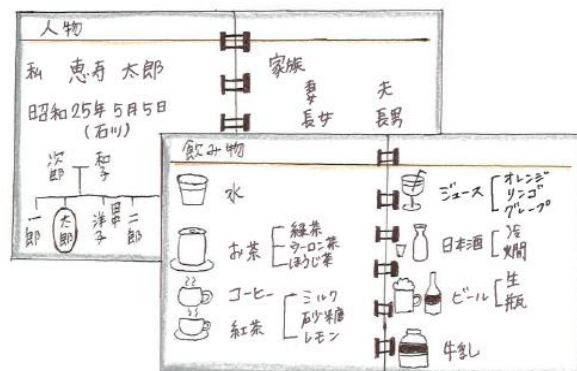
よく使う言葉や必要な事柄をまとめ

ノート・カードを作成しましょう。

話すことや書くことが難しい場合、

言いたい言葉をカードに書いておき、

それを見せて伝えるという方法があります。



・ 50 音表は使わない

言葉が出にくいのであれば、50 音表を使い

指さしで会話をしようと考えがちですが、

「読む」ことも困難な場合が多くあります。

その為、失語症の方には有効な方法とは言えません。

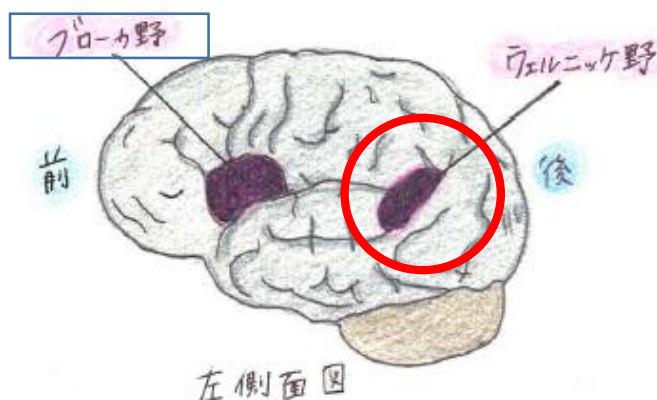


4.失語症の種類

■ 運動性失語症（ブローカ失語症）

運動性失語症は、脳（左脳）の比較的前の方の部分に障害が起き、運動性言語中枢（別名：ブローカ中枢）に障害がある状態です。このタイプの失語症は、イメージが言葉になる過程で障害がおこるため、話すことがうまくできず、ぎこちない話し方になります。また、言葉の発音が不明瞭になったり他の音に置き換わることがあります。

軽度の方は文章で話せますが、話すスピードは遅く、言葉の発音はしにくいです。重度の方は単語や短い言葉を話しますが、文章を話すことは難しくなります。



■ 感覚性失語症（ウェルニッケ失語症）

感覚性失語症は、脳の比較的後ろの部分に障害が起き、感覚性言語中枢（別名：ウェルニッケ中枢）に障害がある状態です。このタイプの失語症は、なめらかにぺらぺらと話すことができますが言い間違いが多く、また相手の言っていることが理解できず会話が成立しないことがあります。話すことよりも聞いて理解することが困難になるのがこのタイプの失語症です。軽度の人でも複雑な文章は聞き取りにくくなり、重度の場合は日常の意思疎通が大変困難になります。



■ 失名詞失語（健忘失語）

比較的軽度の失語症です。聞いて理解することはでき、会話も口頭で楽しめますが、物の名前が出てこないため、回りくどい話し方が多くなります。例えば、「スイカ」という単語が思い出せず「ほら夏に食べる、大きくて、丸くて、おいしいの」と言いたいものを抽象的に表現します。

■全失語

「聞く・話す・読む・書く」全ての言語機能に障害がある、重度の失語症です。聞いて理解するのは困難ですが、その人の感情に強く訴える言葉は理解できることもあります。意味のある言葉を使うことがほとんどできなくなり、決まりきった言葉しか言えなくなったり、相づち程度になります。



5.まとめ

- 失語症は言葉が出にくくなるだけでなく、言語を理解する事も困難になる。
- 認知症との大きな違いは、状況の把握や記憶には問題がないという点。
- 様々な種類の失語症があるため、その人にあたりハビリを行う。
- 失語症の方と接する時はゆっくり、簡潔に話すようにする。

